



2006年10月1日
開学30周年を迎えます。

特集

大学評価は何のため?

- ・西口副学長へインタビュー
- ・本学の大学評価活動のあゆみ
- ・本学の評価活動に関連するアンケート調査一覧

CONTENTS

- 2 NEWS
- 3 起業するためのNTIC講習会
- 4 特集—大学評価は何のため?—
- 8 平山特任教授から
- 9 Services!
- 10 学生指導研究会
- 11 ほへっとする話
- 12 実務訓練奮闘中!
- 13 就職コーナー
- 14 卒業生だより
- 15 トピックス
- 16 にいがたみてある記／編集後記

NEWS

服部前学長がヴェネズエラのシモン・ポリバル大学より名誉博士号を授与されました。

平成17年11月17日、本学の服部賢前学長が、ヴェネズエラのシモン・ポリバル大学より招聘を受け、同大学にて名誉博士号を授与されました。

今回の名誉博士号は、本学の国際交流の拡充の一環として、シモン・ポリバル大学との学術交流協定等を積極的に推進してきた貢献に対して授与されたものです。

ヴェネズエラにおける名誉博士号の審査は非常に厳密に行われ、時間がかかることで有名で、今回もFreddy Malpica元学長が発議し、Pedro Aso前学長の時代に承認され、Benjamin Scharifker現学長から授与されるという、実に3名の学長が関与した名誉博士号となりました。

本学とシモン・ポリバル大学との交流は、昭和58年に本学の国費留学生第一号として、シモン・ポリバル大学からの研究生を受け入れたことから始まります。



左からNiuirka Ramos リトラル分校校長, Jose Ferrer 経営担当副学長, 服部前学長, Benjamin Scharifker シモン・ポリバル大学学長, Aura Lopez 学術担当副学長です。

その後、平成7年12月12日に学術交流協定を締結し、また平成9年7月31日には学生交流の覚書を交わし、教育・研究連携を積極的に行っています。

また、本学が日本の唯一の代表として参加しているハーバード大学の模擬国連への参加のきっかけもシモン・ポリバル大学の呼びかけによるものでした。この模擬国連には、工科系の単科大学としては世界の中でマサチューセッツ工科大学、本学とシモン・ポリバル大学の3大学だけが参加しているなど、シモン・ポリバル大学は本学と関係の深い大学になっています。

「にいがた産学交流フェア2005」に本学から多数出展！

去る12月6日(火)、ハイブ長岡を会場として、産学交流による新産業創出を目的とした「にいがた産学交流フェア2005」が開催されました。本学からは最先端の研究を行っている31の研究室等がパネル出展し、高い評価を得ました。当日は研究室を離れ、産業界との技術交流を活発に行うことができ、大変有意義な一日となりました。



電子セラミックス研究室のブース

本学からの出展ブース一覧

NO.	系	研究室名	代表教員等	テーマ	NO.	系	研究室名	代表教員等	テーマ
1	機械系	超音波・非破壊計測研究室	井原郁夫	先進非破壊評価とモニタリング	17	NTIC	歯システムセーフティテクノロジー	栃尾昌洋	国際規格準拠の安全を
2	電気系	カオス・フラクタル情報数理工学研究室	中川匡弘	カオス・フラクタル情報数理工学	18	電気系	プラズマ工学研究室	原田信弘	大気圧放電プラズマの応用
3	電気系	デバイスプロセス研究室	河合 晃	光学フリンジを利用した大型基板表面の清浄度評価法	19	化学系	有機材料工学研究室	河原成元	脱蛋白質化天然ゴム
4	電気系	モーションコントロール研究室	大石 潔	力覚・触覚フィードバック制御	20	化学系	分析化学研究室	梅田 実	低コスト燃料電池
5	電気系	半導体工学研究室	安井寛治	Cat-CVD法による薄膜形成,結晶成長	21	機械系	高温材料研究室	南口 誠	高温における金属材料,セラミックスの反応とその応用
6	NTIC	FUCO(フーコ)	藤原 拓	産と学生の連携による地域活性化	22	機械系	精密押抜,塑性加工研究室	永澤 茂	押抜加工技術の進展と解析法の確立
7	電気系 (技術開発センター)	電子セラミック研究室	高田雅介	電子材料セラミックス	23	機械系	環境システム工学研究室	山田 昇	コケによる屋上薄層緑化の効果検証
8	機械系	超精密加工・機構研究室	久曾神煌 磯部浩巳	超音波振動を利用したフラットパネル・基板の非接触搬送技術の開発	24	機械系	システム制御研究室	滑川 徹	システム制御とメカトロニクス
9	環境・建設系	環境材料科学研究室	佐藤一則	メタン直接使用の燃料電池	25	機械系	加工計測・機能性評価研究室	柳 和久	表面機能の評価,保証を目的とした計測技術
10	生物系	医用生体工学研究室	内山尚志	認知症を中心とした高齢者に対する工学支援	26	機械系	機械力学研究室	矢鍋重夫	柔軟媒体搬送シミュレーション技術
11	経営情報系	経営システム研究室	片岡正俊	インターネット時代の経営システム	27	機械系	大学院技術経営研究科システム安全工学専攻	武藤睦治 門脇 敏	システム安全専門職育成プログラム
12	経営情報系	組織経済論研究室	遠山正朗	取引コスト理論の基礎と応用	28	機械系	雪氷工学研究室	上村靖司	空気熱媒体融雪システム ACCESSS
13	経営情報系	医用福祉工学研究室	三宅 仁	長岡技術科学大学における健康情報管理システムと地域医療連携	29		テクノインキュベーションセンター	柳 和久	産学官連携の活動拠点
14	機械系	ナノデバイス研究室	安井孝成	ナノインデント加工法,CW-高速THzセンサー	30		NMR(核磁気共鳴装置)管理運営グループ	竹中克彦	核磁気共鳴(NMR)で何がわかる?
15	機械系	材料強度・接合工学研究室	武藤睦治 宮下幸雄	シミュレーションを援用した各種レーザー加工	31	機械系	超精密加工・機構研究室	久曾神煌 磯部浩巳	超音波振動を援用した加工技術
16	機械系	レスキュー工学研究室	木村哲也	レスキューロボットの展示					

NTIC 講習会

テクノインキュベーションセンター（NTIC）では、経済社会の活性化に積極的に貢献するため、大学発ベンチャー企業及び起業を志す大学の学生と教員、学外の本学卒業生、修了生等に対し、外部専門家委託により企業の創設と育成を支援するため、昨年12月より下記のとおり講習会を開催しております。

- 12月 3日(土) 起業時の流れと設立の手続きについて (税理士 藤井章雄氏)
- 10日(土) 会社の一年 (税理士 藤井英雄氏)
- 17日(土) 職務発明について (弁理士 吉井剛氏)
- 22日(木) 社会保障の仕組みと1年の流れ (社労士 高野洋子氏)
- 1月14日(土) 新会社法について (弁護士 高野毅氏)
- 19日(木) キャッシュフローの入口 (税理士 高野裕氏)
- 28日(土) 逆転のキャッシュフロー (税理士 高野裕氏)
- 2月 4日(土) 経営計画を考える (税理士 高野裕氏)
- 18日(土) 起業を実現するために (NICO常務理事 総括ディレクター 金子武夫氏, 税理士 高野裕氏)

NTICの目的

本学では、開学当初から「産学共同教育研究」を活動の大きな柱とし、積極的に推進してきました。これにより、多くの研究成果を生み、社会に還元してきました。本センターは、本学の持つ技術シーズを地域社会や産業界等に適切かつ効果的に還元することにより、企業等の新技術開発の促進及び新産業の創生に資することを目的としております。

現在、講習会に参加している学生の声を紹介します。

起業するためのNTIC講習会を受講して



情報・制御工学専攻
博士後期課程4年

析尾 昌洋
(大阪府立高専出身)

現在「起業するためのNTIC講習会」と題して、全9回の講習会が開かれています。市内でも著名な企業支援集団「パートナーズプロジェクト」から講師をお招きして教えていただいています。

私はひょんなことから学内ベンチャーの社長になり、一企業の経営・運営を任せられることになったので、本講習会に参加し社長として成すべきことを学んでいます。会社のすることを大きな流れとして説明していただくので、「どのタイミングで、何のために、何をするか」がよく理解できました。おかげで日々の買い物からニュースの見方まで随分と変わりました。また、通常であれば数千円～数万円の参加費を支払うべき価値の有る内容が、無



キャッシュフローの入口(1/19)の講習会

料というのもすばらしいと思います。

今後も「逆転のキャッシュフロー」「経営計画を考える」「起業を実現するために」の3つの講習会が予定されています。起業の意思がなくとも、就職するに当たって企業の見方を変えるいいチャンスですので、参加してみたいかがでしょうか。就職の決め手は「やりたいこと」だけではありません。就職先を見極めるためにも「企業とは何か」を学ぶしておくことは必ずプラスになるでしょう。

また、学内ベンチャー(有)SSTでは学生アルバイトを募集しています。ただバイトとして使われるだけでなく、プロジェクト管理や会社の仕組みにまで関わることができますので、是非協力してください。

大学評価は何のため？

大学機関別認証評価をはじめとする様々な大学評価活動について、西口副学長（大学評価担当）にお話をうかがいました。

聞き手 若林 敦（語学センター助教授・VOS専門部会長）

——本学が今年度受審した「大学機関別認証評価」とはどのようなものですか。

大学に対する第三者評価の一つですね。学校教育法の改正（H16（2004）.4 施行）によって、全国すべての国公立大学がこの「認証評価」を7年以内ごとに受審することが義務づけられました。大学の教育研究活動などの質を保証し、

その改善に役立て、また、評価結果を公表して大学の活動状況を社会に示すことを目的に実施されるものです。本学は、独立行政法人大学評価・学位授与機構による認証評価を受けました。国立大学法人では豊橋技大とともに、他大学に先駆けての受審でした。

——今回の「認証評価」の特徴はどんなところにありましたか。

まずは、学生重視、教育活動を中心とした評価であったという点です。それも、例えば、シラバスの整備、講義の準備、講義の内容と担当教員の研究との相関、授業アンケートの実施と授業改善への利用、成績の客観性の保証、成績への学生の申し立てに対する組織的対応、改善策とFD（ファカルティ・デベロップメント＝教員の教育能力開発）との結びつき、もうなんせ徹底的に聞いてくるんですよ（笑）。これまでの大学評価よりもはるかに具体的で細かい。



本学の 大学評価活動

あ
H5ゆH17
み

年度	大学評価（自己点検・評価、外部評価、第三者評価）
平成 5	■自己点検・評価「教育と研究の現状'93」編纂
8	■自己点検・評価「教育と研究の現状'96」編纂
11	■自己点検・評価「教育と研究の現状'99 —“技学”の更なる進展に向けて—」編纂 ■上記に対する外部評価実施
12	■上記平成11年度実施の自己点検・評価と外部評価等取りまとめ ・「外部評価と自己点検・評価 1999-2000」編纂 ・「長岡技術科学大学外部評価シンポジウム報告書 —教育の現状と将来—」編纂
13	■大学評価・学位授与機構の実施する大学評価 ・全学テーマ別評価「教育サービス面における社会貢献」受審
14	■大学評価・学位授与機構の実施する大学評価 ・全学テーマ別評価「教養教育」受審 ・全学テーマ別評価「研究活動面における社会との連携及び協力」受審 ・分野別教育評価「工学系」受審

さらに、大学が一方的に教育するのではなく、学生自身がどういう事を、どういうふうに勉強したいと考えているかを、きちんと把握し、教育活動にどう反映させているかが非常に問われた、そういう印象がありました。

もう一つは、自己評価に基づいて、特に結果と改善策を大変重視していた点です。評価の観点がだいたい、1.目的・指針、2.実施要領、方法・手段、3.結果、4.改善策という組み立てになっています。その中で、結果に対する評価をきっちりすること、そして悪い結果についてはどのように改善しようとしているのかを示すことまで求められました。もちろん、必要な資料の裏付けとともにです。例えば、教員・職員に対するFDの取り組み、女性教員・外国人教員の人数などは、本学の弱点として認識してはいたけれど、改善の手だてが十分ではなかった。そういう点が指摘されましたね。

——なるほど。それで、この認証評価を受けて
 どのような利点があったわけですか。

勉強になりましたね、はっきり言って。本学はこれまで自己点検・評価にも外部評価にも積極的に取り組んできたと思いますが、それでもまだ足りないところがあった。例えば、講義だけでなく成績への申し立てまで含めて学生の学ぶ権利を保障する、博士論文の審査の公平性や

透明性を担保するといったことについて、これまでできてなかったわけではないけれど、制度としては完備してなかった。そういった点を整備していかなければならないな、と認識しました。また、自己評価書の作成過程では、私たち自身で調査をし、教員だけでなく職員も入って何度も何度も討議を重ね、結論の方向性を出していった。自分たちで現状を見て、その原因はどこにあるのかを考え、的確に総括し、優れた点・改善を要する点を分けて書く、そのことによって、これまで大学として組織的にやってきたことに対し、良いところと悪いところがはっきりしてきた。これが今後のためにたいへんよかったですと思います。配属された研究室になじめない学生の救済措置など、早急に対策を要する点もあります。それらについては、役員会から各委員会に諮問するなどして、全学の先生方の共通認識にもしてもらい、改善していこうと考えています。

——本当にたいへんな労力を費やして評価を受けたわけですから、それが生かされないとい
 何にもならないわけですね。

そうです。この1月末に評価結果の通知が来て、それに対する意見の申し立て手続きが2月、最終的な評価結果の確定が3月です。それを受けて、新年度には、改善策を実行できるものか

年度	大学評価（自己点検・評価、外部評価、第三者評価）	日本技術者教育認定機構（JABEE）の認定審査
平成15	<ul style="list-style-type: none"> ■ 大学評価・学位授与機構の実施する大学評価 ・ 全学テーマ別評価「国際的な連携及び交流活動」受審 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 認定審査受審 ・ 機械創造工学課程 ・ 建設工学課程
16		<ul style="list-style-type: none"> ■ 認定審査受審 ・ 材料開発工学課程
17	<ul style="list-style-type: none"> ■ 国立大学法人評価委員会による業務実績に関する年度評価 ■ 大学評価・学位授与機構による大学機関別認証評価受審 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 認定審査受審 ・ 電気電子情報工学課程 ・ 環境システム工学課程 ・ 機械創造工学課程（中間審査） ・ 建設工学課程（中間審査）



特集

ら実施していきたい。教職員の皆さんは、今回の「自己評価書」を本学のホームページでも見ることができますので、ぜひ読んでいただき、ご意見やご提案をお寄せいただきたい。結局、何か目に見えて役に立った、よかったということがなければ、評価活動の意味はないんですよ。ただやったということで終わってしまっただけでは、所謂「評価疲れ」が残るだけで何にもならない。私が一番危惧するところですね。そうしないために、今回の評価結果を全学で共有して、よりよい大学作りに取り組めるよう、役員会がしっかりイニシアチブをとっていききたいと思っています。

——わかりました。ところで、本学では、今回の認証評価のような大きな評価のほかにも、様々な評価活動を行なっています。そういったものは、どのように本学の活動に生かされているのですか。

授業アンケートを例にとりましょう。これは集計結果を各教員に返します。それは、その授業の評価が全体の中でどれくらいの位置にあるかもわかるようになっていきます。各教員はその結果を見て、授業改善の参考とします。例えば、教科書の変更、教材の更新、講義ノートの改良、進度の調整、板書の仕方や話し方の工夫、成績評価の方法の改善などを実際に行なっています。また、系によっては、良い評価を受けた授業を他の教員が見学に行って、授業のやり方を学ぶといったことも実施しています。

——ほかにはどうですか。

平成11(1999)年度に、自己点検・評価のために、本学修士修了生へのアンケートと、企業へのアンケートを同時期に行ないました。修了生へは本学での教育・研究が現在の仕事に役立っているか、または自分に意味があったかを主に聞きました。企業へは、本学修士修了生のタイプや資質、仕事に関わる能力・学力、そして「実践的・創造的能力を備えた指導的技術者」としての評価を聞きました。その結果と分析は、自

己点検・評価報告書(注)に載せてあります。この二つのアンケートは初めての試みでしたが、本学の教育が実際の社会からどう評価されているかを知る上で、たいへん役に立ちました。

修了生へのアンケートでは実務訓練への極めて高い評価が明らかになる一方で、その前後、つまり学部3、4年の1年半と修士課程の教育の連続性に課題がありそうということがわかりました。企業へのアンケートでは、本学修了生が高度な専門性を有する実践的な技術者として高く評価されていることがわかり、さらに、問題発見・解決能力育成への強い要請を知ることができました。

これらの結果も、本学の教育活動を見直す貴重な資料となっています。特に、修了生へのアンケートは再度実施することとしています。今はアンケートを行なったという段階にとどまっていますが、今後はそのデータも、教育活動の改善に生かすことを考えたいと思っています。

——あらためて整理してみると、大学の評価活動は本当に多いですね。

そうですね。本学では別にJABEE(日本技術者教育認定機構)による各課程の教育プログラム審査も受けています。さらに、国立大学法人評価委員会による中期目標・中期計画に係る評価もあります。こんなに多くの評価が、それぞれに行なわれていたのでは、結局、教職員は評価のための評価に追われ、その結果を実際に生かすことができないという事態になりかねません。ですから、一つはやはり基本的な資料類の蓄積・整理をしっかりとやり、いろんな評価への共通の備えを作っておくことが必要でしょう。もう一つは、それぞれの評価活動を通じて明らかになった内容を全体的な立場で整理し、何が本学の活動改善の重点かを簡潔にまとめて教職員に返していくという機能を、大学の執行部などの責任ある部署が果たしていかなければなりません。そのことは強く自覚しています。

これからの大学は、様々な評価を受けながら、自主的かつ継続的に、教育研究活動向上の努力をしていくことが求められます。今はその最初

の段階ですから、評価への準備それ自体がかなりの負担となっているという面もあると思います。その負担の軽減を何とか図りつつ、評価結果を実際に効率的に生かしていくということに教職員が力を発揮できるようにしていきたいと思います。それが結局は、学生や父母の方々および社会からの本学の評価を高めることになるわけですし、大学および教職員にとっては、一番大事なことになると思います。

(2005.12.8)



(注)『教育と研究の現状1999 - “技学”の更なる進展に向けて-』

本学の評価活動に関連するアンケート・調査一覧

	評価の種類	趣旨,目的等
恒常的なもの	(1) 学部4年卒業時の修得度自己評価アンケート	学部の2年間(第3学年編入学者)又は4年間(第1学年入学者)に学んだ様々な分野の学習にどれほど習熟したと感じているかを聞くためにアンケート調査を実施し,現状を把握。
	(2) 修士課程修了時の修得度自己評価アンケート	修士課程の2年間に学んだ様々な分野の学習にどれほど習熟したと感じているかを聞くためにアンケート調査を実施し,現状を把握。
	(3) 授業アンケート	講義,演習,実験・実習の3種類で各15項目にわたる質問項目からなる。授業方法改善のためのアンケート調査で,集計結果は各教員,学生に公開される。
	(4) 実務訓練アンケート	実社会での実習を体験した後,大学院修士課程での学習のモチベーションを各学生が自ら得ることを期待して,実務訓練終了直後にアンケート調査を実施し,実務訓練実施後の状況を把握。 なお,修士課程修了時にもアンケート調査を実施し,状況を把握。また,修士課程修了後5年後の卒業生に対しアンケート調査を実施し,現時点でどのように実務訓練制度を受け止めているかを把握。
	(5) 対外的諸行事の際のアンケート	<ul style="list-style-type: none"> ・ オープンキャンパス ・ オープンハウス ・ 公開講座等 ・ 企業等向けのプレゼンテーション
臨時的・周期的なもの	・ 父母懇談会	本学の教育・研究の現状に対し,保護者の率直な意見等を聴取するとともに,学生が大学内では話せない本人がかかえている修学,就職等の悩みについて相談を受けることにより,現状を把握。
	(1) 大学院修士課程修了者が企業人として見た本学の教育の評価(平成11年度)	大学院修士課程を修了し,企業人として活躍している者が本学において受けた教育を現時点でどのように受け止めているか,問題があるとすればどのあたりかをアンケートの回答から直接探る。
	(2) 就職先企業が見た本学修士修了生の評価(平成11年度)	本学の自己点検・評価の一指針とすることを目的として本学の修士課程修了生が企業等においてどのように評価されているかをアンケート調査から直接探る。
	(3) 学生生活実態調査(平成16年度)	本学学生の大学生活全般について調査し,学生生活の実態及び学生の意識,意見,要望を把握し,修学指導,課外活動等の充実を図るための基礎資料を得る。



「この一年を振り返って」

平山 征夫
(経営情報系 特任教授)

「この一年を振り返って」というタイトルをつけたのですが、私が本学に奉職したのは平成17年4月からですので、正確には「9ヶ月を振り返って」ということになります。従ってこの自然豊かな山の上のキャンパスの四季を全て経験したわけではありませんが、やはり一番印象的なのは自然の変化を感じながら過ごしているということです。新潟市から新幹線→バスという通勤を4月から続けて感じたことは、行き帰りに渡る信濃川と研究棟から見る東山の景色の美しさと共に、日々微妙に変わっていくその姿です。その変化を観察するのを楽しみに通勤しています。冬のキャンパスのことは、夏頃から何人かの先生に脅されていましたが、吹雪の時の厳しさより、融雪パイプの普及している長岡の冬の道は、新潟と違い水浸しの道路を歩くので長靴が必要ということに気がつかされました。同じ県内でも違うものだなあと改めて雪の本場長岡を感じた次第です。

そして何よりも強く感じたのは大学はやはり県庁とは相当に違うということ。そんなことは当たり前なのですが、若い人が圧倒的に多い中に入った時の落ち着かなさや、食堂のメニューから低カロリーものを選ぶ困難さなど、初めは戸惑いがありました。しかし、慣れとは恐ろしいもので、学生の前で何回か授業をやっていくうちに違和感は無くなりました。自分の学生時代を思い出し当時にタイムスリップした気分になり、お陰で知事時代に比べ大分若返ることが出来ました(気持ちだけ)。



第4回公開講演会の様子

平山特任教授の公開講演会一覧

回数	期日	題目
第1回	17.5.17(火)	地方分権は地域に何をもたらすか
第2回	17.6.14(火)	構造改革は地域に何をもたらすか
第3回	17.7.14(木)	地域で私達は何をすべきか
第4回	17.12.21(水)	地球時代の日本—異質な日本、同質化する日本
第5回	18.1.17(火)	日本の中の新潟—その果たすべき役割は
第6回	18.2.7(火)	地球国の中の日本、その中の新潟—いつまでも美しいか

困ったのは機器操作。当然なのですが大学は自由と見合って自立が前提ですが、知事時代に携帯電話、パソコン、ワープロ等一切の機器類の操作を秘書任せにしてきた(せざるを得なかった)私には、それら機器操作を全てゼロから覚えなければなりませんでした。幸いプロの吉田先生に特訓して頂き、何とかこなせるころまでできましたが、こうした文明の利器を駆使して授業をされている先生を拝見すると、もっとマスターしなくてはと感じています。その反面「パソコンの画面で授業すると、教室が暗くなるので生徒が寝てしまうし、聴いていてもどうしてもテンポが速くなりついていきにくい。だから黒板書きがいいんだ」と自己弁解しています。学生サービスとしては問題なのでしょうが・・・。

技科大の学風は思ったより明るくオープン。それは全国から集まってきているからかなと思っています。クラブ活動の種類が少ないのとクラブに所属する学生が少ないのは研究が忙しいためでしょうか。ほかにも理工系の大学は私のような社会科学系出身者から見ると単位履修、実験、レポート作成ととにかく学生が忙しそうで少し気の毒だなあ、留学生も多く国際化も活発だが、東南アジアなどの暖かい国から来て寒くはないかな、国立大学法人となったわけだが、メリットは何だろうなど感じながら、来年度開講の「地域経営論」の準備をしています。それがまとまる頃には、私の技科大2年目がスタートし、キャンパスに待望の春が訪れていることでしょう。

Services!

— 将来を担う子供たちのために —

レスキューロボを披露！

機械創造工学課程3年
ロボコンプロジェクト

菅野 優太
(仙台電波高専出身)



私たちロボコンプロジェクトは12月10,11日に県立上越科学館で開催された科学の祭典に参加してきました。科学の祭典は子供たちに科学の楽しさを知ってもらおうと毎年開催され、多くの大学、企業などが参加しています。

私たちは昨年のレスキューロボットコンテストでレスキュー工学大賞を受賞したロボットの操縦体験を行いました。このレスキューロボットは、地震などで建物が倒壊し、中に閉じ込められた人間を救出する際に、そのガレキの除去を行うロボットの縮小モデルです。縮小モデルといっても、操縦は無線で、ロボットに取り付けられたカメラから送られてくる画像をもとに救出作業を行います。今回の科学の祭典での救出作業は、ガレキの中に

隠れた人形を助けるというものです。操縦体験は子供たちに大人気で、みんな夢中になって救出作業をしてくれました。

実際の災害現場での救出作業は、人間にとっても大変ですが、ロボットにとっても大変な作業になります。レスキューロボットは、人間が得意とする作業は何か、ロボットが得意とする作業は何かを考えて設計しなければなりません。今回の科学の祭典で私たちの研究内容や活動を知ってもらおうと共に、実際の災害現場で多くの人たちを助けるには一体どうすればよいかを子供たちに考えてもらう機会になればと思っています。



子供たちは夢中になって救出作業を体験

アーチ橋の構造を考察！

建設工学課程3年 尾口 佳丈
(宮城県工業高校出身)



12月12日の月曜日に大島小学校で出前授業を行いました。この出前授業は建設工学テーマセミナーⅡのひとつで、私たちはその中でこのテーマを受講しました。準備期間は約3ヶ月で、最初はテーマを考えるとところから始まりました。私のテーマは「実験・模型」でした。

「実験・模型」といっても、自分が理解していて、なおかつ小学生に分かりやすく伝えられるものを取り上げなければなりません。そこで私が取り上げたのは「橋のしくみ」についてでした。橋をとりあげてみたものの、今まで橋の模型を作ったことがありませんでした。そこで橋に詳しい環境・建設系の岩崎先生に相談して模型を借りることにしました。その中には、アーチ橋の大きな模型があり、それを実演したら小学生にも分かりやすく楽しめるのではないかと思います。

授業の準備は早い段階から進めて、同じ班の学生が手伝ってくれ、直前によく無事終わることができました。ぎりぎりまで準備が終わったためにリハーサルがほと



模型を使った実験では、子供たちも興味深々

んど出来ず、ぶっつけ本番で授業に臨みました。

小学校での授業は3回目だったのでみんな緊張せずに進めましたが、今までと違い実験・模型を使ったことでまた緊張しました。缶詰を使ってアーチ橋を作って実演を行い、うまくいかないなどのハプニングもありましたが、最後には小学生の前で大きなアーチ橋の模型を使って実験を行ったことで、その失敗を挽回でき、よりわかりやすく説明することができました。

このテーマセミナーで自分たちが学んでいることを分かりやすく説明する難しさや、人がたくさんいる中で話すことの大変さなど、普段の授業では学べないことを学ぶことができました。

学生指導研究会を開催

平成17年12月14日(水)、本学マルチメディアシステムセンターにおいて学生指導研究会を開催し、本学カウンセラーの福間芽美さんよりカウンセリング等についての講演をしていただきました。以下、福間さんからの声を紹介します。



長岡技術科学大学
カウンセラー 福間 芽美

平成17年12月14日(水)の午後、「学生指導研究会」におきまして、講演をさせていただける光栄をいただきました。今回は以下の2点についてお話をさせていただきました。

- 1 私が「カウンセリング」というものを、どのように認識しているか。
- 2 来談してくださる方のお話を、カウンセラーとしてどのような思いで伺っているか。

長岡技術科学大学でカウンセリングをさせていただくようになりましてから、1年2ヶ月が過ぎたわけですが、カウンセラーはどのようなポリシーを持ってカウンセリングをしているのかを知っていただくことで、カウンセリングを少しでも身近に感じていただければと思います。

講演の内容

- 1 人は青年期までで発達成長が止まるわけではありません。生涯に渡って、発達成長しつづけます。カウンセリングは、その人の発達成長を促進させると私は考えております。
来談者がカウンセリングを活用しようと思うきっかけは、不安、プレッシャー、恐怖、辛さ、うまくいかない感じ、心身の病気、選択に迷う、新しい発想を得たい、能力開発など様々です。しかし皆さんに共通なことは、「今より、さらに前に進みたい」「今までの自分よりさらに成長したい」という動機をもって来談されているということです。言いかえれば、「ピンチを大きなチャンスに変えたり、人生をもっと開発したい」という自己啓発意欲を持ってカウンセリングを活用されているということでもあります。その結果、様々な気づきを得たり、心の充実感を得たり、勇気や強さ、優しさ、心の癒し、元気を得てカウンセリングを終了していかれることになるのです。そして、その後の人生が促進されるという訳です。

- 2 自分に真剣に向き合うという事は中々容易なことではなく、しんどい作業でもあります。だからこそ、私は来談された方に尊敬の念を抱きながら、お話を心から尊重して傾聴させていただいているのです。
来談者の自己成長能力や問題解決能力を信頼しながらも、ご自分では気付いておられない長所をお伝えすることも大切にしています。

心理学は心を対象にしている学問です。心は人が全員持っているものです。カウンセリングは、心理学の実践応用です。気軽に活用をしていただけるようにと思いつつながら、講演を終わりました。



本学カウンセラーの福間芽美氏の講演の様子

ほ〜っとする話

教職員の趣味・特技、休日の過ごし方、ふるさとの紹介などをするコーナーです。

陶器で豊かな気分



針貝 俊彦 (学務課長)

私は、陶芸をはじめて10年近くになります。それまでは下手の横好きで写真、油絵、書などをやってきましたが、地元横浜市に陶芸センターがあったことがきっかけで始め、長岡に赴任後の現在も続けています。最近では、趣味を聞かれると、「陶芸です」と答えています。昔ですと、陶芸は老後に私財を投げうって道楽として行われていました。現在では、窯材料や燃料費の普及で各地の粘土、釉薬が市販され、簡単に入手できることから、誰でも陶芸教室などで作ることができます。

私は、今の自分を日記と同様に、空間造形の中で絵付けやデザインを施しながら表現したいと考えています。そこで毎回楽しみながら制作しています。

焼き物は、総称して「陶器」と呼ばれていますが、大きく分けて土器、妬（せつ）器、磁器、陶器の四つに分類されます。土器は、縄文、弥生土器や土師（はじ）器などのように焼くための窯を用いず、野焼きによって焼き締められた釉薬の掛からないもので、もろく、土味や表情が豊かな焼き物です。妬器は、万古、伊賀、常滑、備前などで高温で焼成され、釉薬は掛けない場合が多く、吸水性もなく色は褐色系です。磁器は、素地が白く、薄手の素地では透光性があり、指ではじくとチンと金属音がします。吸水性はなく、表面が滑らかなので、最も日常食器に向いています。私のやっている陶器は、各地の民窯に多くみられ、ほとんどの場合、釉薬が掛けてあり、色は素地の色と釉薬の色の組合せで豊富です。茶道具に使われるなど趣がありますが、釉薬を掛けない高台の回りや貫入が大きい器物ではいくぶん吸水性があり、日常食器としては不潔になりやすいのが欠点です。

歴史をひも解くと、長岡では、縄文時代中・後期に火焰土器が制作され、内部に炭化物が付着した例が多いことから、祭事時の煮炊きに利用したと推定

されています。独創的で芸術性が高く、日本美術史で最も誇れるものと思います。

江戸時代の長岡藩では、天保時代、悠久山近くでお山焼という官窯が起り、また、関原焼という民窯が越後瀬戸窯場と称して茶碗や鉢を大きく商って繁盛していたようです。ただし、関東甲信越はローム層で土質が悪いため芸術品の制作に適さず、長岡の入り江に往来する船から瀬戸焼や能登の珠洲焼が入り、これに押されて戦前で廃絶したようです。

関東で代表的な窯業地である益子や笠間では、昔は台所の漬物のカメや水ガメなど雑器を生産していましたが、現在では地元の土に加え、高い耐火度で焼成できるよう信楽などから蛙目土や木節土といった土を混ぜて使用し、活気を呈しています。

佐渡が島の無名異焼は全国的に有名ですが、地元で産する赤色粘土は、硫化鉄の酸化したもので、これだけでは堅地でないため、各窯元で前述の土などを混ぜて制作され、それが特長となっています。

皆さんの多くは焼き物を自ら作る機会はなかなかないかも知れませんが、各地の窯元で趣のある、気に入った陶器を見つければ一つ買い求めていただき、普段使っているモノの仲間に加えられると、その使い方次第では、生活がグーと豊かな気分になるのではないかと思います。どうぞ、試してみてください。



宿舎玄関先の近作たち

実務訓練

実務訓練で奮闘中!

海外実務訓練を通じて

環境システム工学課程4年 土屋 宏正
(長野高専出身)

実務訓練先:

National Metal and Materials
Technology Center (タイ)

私は現在、タイ王国、MTEC (National Metal and Materials Technology Center)で燃料電池の電解質作成に関する研究テーマで実務訓練を行っています。派遣が決まるまではタイはもちろん海外へ行った経験すらほとんどなく、到着当初は、戸惑うこともありましたが。実際に実務訓練でプロジェクトを行うにあたって強く認識したのは、グループのメンバーとのコミュニケーションの重要性です。会話の内容を正確に理解するだけでなく、自分が相手の意見のどこまでを理解しているのかを伝えなければ効率的に研究を進めることができません。会話の内容は理解しているのにレスポンスがうまく出来ずに、相手に同じことを説明させてしまったことも一度や二度ではありません。

英語での会話がままならない私が考え取り入れたのは、自主的な報告書の作成です。理解したこと、実験結果を簡単な英語でまとめたものですが、図や表、数式は工学の世界では共通言語であり、常にこれを示しながら議論することでより深い理解が可能になりました。任される

研究の段階もあがり、高専や技大で毎週のように書かされ、身についたレポート作成の技術も決して無駄ではなかったと思っています。

実務訓練を通じたこのような発見は、海外や語学に対して自分自身で必要以上に高く築いていたハードルを下げてくれたように思います。今後、実務訓練で海外へ行くチャンスがある人はぜひ挑戦してみることをお勧めします。



現地での結婚式に招待されて (筆者は右から2番目)

実務訓練とは・・・

社会との密接な接触を通じて、指導的技術者として必要な人間性の陶冶と、実践的技術感覚を体得させることを目的として、学部第4学年後半に約5か月間、企業、官庁、公団等において実務訓練(インターンシップ)を履修させる本学の特色ある教育プログラムです。本学は、開学当初(昭和54年)よりこのプログラムを長年に渡り実践してきたことが評価され、(社)日本工学教育協会で最高賞の「文部科学大臣賞」(平成15年度)を受賞するとともに、文部科学省が認定する「特色ある教育支援プログラム(特色GP)」(平成15年度)に選定され、本学の全国に誇れる特色の一つとなっています。

平成17年度 実務訓練実施状況

1. 実務訓練実施期間

機械系	機械創造工学課程	平成17年10月3日(月)~ 平成18年2月24日(金)
環境・建設系	建設工学課程 環境システム工学課程	
電気系	電気電子情報工学課程	平成17年10月3日(月)~ 平成18年2月17日(金)
経営情報系	経営情報システム工学課程	
化学系	材料開発工学課程	平成17年10月3日(月)~ 平成18年1月31日(火)
生物系	生物機能工学課程	

2. 実務訓練機関と派遣学生数

受入機関業種(機関数)	機械系	電気系	化学系	環境・建設系	生物系	経営情報系	合計
官公庁・公団等	21	0	0	12	13	1	26
建設業	14	0	0	14	1	1	16
食料	5	0	0	1	0	1	7
製造業	繊維工業	1	0	0	1	0	2
	化学工業	20	1	4	12	3	23
	医薬品	2	0	0	0	2	2
	鉄鋼業	3	2	1	0	0	3
	非鉄金属	10	7	1	4	0	12
	金属製品	2	0	0	0	2	2
	一般機械器具	26	20	7	2	0	32
	電気機械器具	41	11	36	9	3	65
	輸送用機械器具	12	6	5	2	1	14
	精密機械器具	8	3	3	1	0	10
その他の製造業	15	3	1	5	3	2	16
(製造業小計)	(145)	(53)	(58)	(37)	(13)	(12)	(188)
運輸通信業	4	0	14	1	0	1	17
電力・ガス・水道	1	0	1	0	0	0	1
サービス業	28	1	3	0	22	1	31
海外の企業等	28	16	10	3	6	3	42
合計	241	70	86	41	68	23	321

海外への実務訓練生内訳(順不同)

国	機関名	人数	所属
マレーシア	マラ教育財団	4名	機械1,電気2,経営1
	日立エアコン・マレーシア	2名	機械1,経営1
	デンセイラムダ	2名	電気2
	マラ技術大学	2名	建設1,環境1
タイ	Toshiba Semiconductor	2名	機械1,経営1
	Shin Dengen Co.,Ltd.	1名	電気1
	Chulalongkorn University	1名	生物1
	Thai Tabuchi Electric Co.,Ltd.	2名	機械1,電気1
	Hoya Glass Disk Thailand Ltd.	2名	電気2
	National Metal and Materials Technology Center (MTEC)	2名	環境1,材開1
	日本電産コパル	1名	機械1
ベトナム	ハノイ工科大学	3名	機械1,材開1,経営1
	HALベトナム	1名	機械1
中国	キャンベトナム	1名	機械1
	鄭州大学	1名	材開1
台湾	国立成功大学	1名	環境1
シンガポール	シガポール総合病院	1名	生物1
	WASEDA-OLYMPUS BIOSCIENCE RESEARCH INSTITUTE	1名	生物1
インド	インド国立イノベーション原子力研究所	1名	機械1
	オーストラリア原子力科学技術機構	1名	機械1
オーストラリア	シドニー工科大学	1名	環境1
	Kaya AMA	1名	機械1
韓国	Daejoo Electronic Materials Co.,Ltd.	1名	機械1
	ボルボ・エアロ社	1名	機械1
スウェーデン	カタルニア工科大学	2名	機械1,建設1
スペイン	クラサオ島石油精製所	2名	機械2
オランダ領	Pioneer Electronics USA	1名	電気1
アメリカ	Instec Research Instrumentation Technology	1名	電気1
計		42名	

企業の方から

個性を伸ばそう！

私たちオリエントタルモーターは、生活に必要な不可欠なあらゆるものの自動化に貢献しています。事業領域は医療業界、IT業界など多岐にわたり、「一個売り」のスタイルのもとに、二万社以上のお客様に幅広い商品を提供しています。今後も時代のニーズに応じた多彩な動きを創造することで、豊かな暮らし、産業の発展に貢献していきたいと考えています。

エンジニアの仕事は、お客様が求めている技術を生み出すことです。これから社会人になる皆さんには学生時代に得られた学力、あるいは技術力が求められますが、それ以上に大切なものは皆さんの個性だと思います。学生時代には、サークル活動やアルバイトなど、社会人になってからでは経験できないことがたくさんあります。その中で培われた考え方

や創造力など、ひとりひとりの個性が働く上で重要となり、こうした個性が企業に新たな風を送り込むのです。また、仕事はひとりで行うものではありません。ひとつの製品、技術を世に送り出すには多くの人が携っています。言い換えれば、多くの個性の結晶が、技術力であり企業なのです。今、熱中していること、興味のあることに全力で取り組み、皆さんの個性、コミュニケーション能力を伸ばして欲しいと思います。

ORIENTAL MOTOR

オリエントタルモーター株式会社
人事部 人事開発グループ

熊谷 慎之介



執者近影

私の就職活動体験談

等身大の自分を出すこと

3月半ばに学校で行われたある会社の説明会が僕と会社の出会いでした。後輩の実務訓練先という程度しか知らなかった会社が今では僕の進む道となったわけです。

学校での説明会から一週間後、本社での説明会を終え、数日後にはぜひ選考に進みたいと連絡したところ4月頭に選考に来てほしいと連絡が…。面接の準備も出来ずに本番に臨みました。今思えばとても無謀なことをしたなと思いますが、逆にそれが素の自分を出せたのかなと感じています。原稿を覚えてしまうと頭が真っ白になった時に口ごもり相手に悪い印象を与えてしまいます。僕の場合はアルバイトのエピソードなどいくらでも話せるようなキーワードを頭に入れておきました。覚えたことをロボットの様に話すより、その場で相手と話を盛り上げるように進めていくことが、僕という人物を知ってもらうには一番だと感じたからです。結果、無事内定を頂くことが出来ました。

大西 昌宏 (詫間電波高専出身)
(電気電子情報工学専攻2年)

この経験を通じて感じたことは、常に等身大の自分を出した方がいいということです。背伸びしすぎてもどこかで不具合が生じます。等身大の自分なら頭が真っ白になっても少しのきっかけで話を盛り上げることが出来ますし、自分の言いたい事も言えずに面接が終了してしまうといった失敗を防ぐことにもなります。自分が行きたいと思う企業であるほど悔いは残したくないですからね。




研究室にて、撮影者は後輩



10年後の雪国と自分

坂本 朋孝

勤務先：助川電気工業株式会社 
技術開発部

(平成8年3月 材料開発工学専攻修了)

茨城高専より長岡技大に編入学して雪国の地で4年間の学生生活を過ごした後、地元の民間企業に就職しました。就職超氷河期と言われた当時から10年が過ぎました。現在の私は、父親としての子育てと仕事に追われる平凡な日々を送っています。しかし、平凡でありながらも充実した毎日を送っています。仕事においても、私生活においても。

私は、入社以来技術開発部において既存製品の改良、新製品の開発業務に携っています。化学系出身の私は、入社時には電気関連の知識が皆無であったため、電気機械器具製造業の弊社の開発業務を進めるうえでは非常に苦労しました。しかし、自分なりに新たな興味を持つことで仕事は楽しくなり、また、素材関

連の開発においては技大で培った知識や経験が活かせる職場でもあり、現在の仕事にやりがいを感じています。困難な時においても新たな興味、好奇心を持つことで、仕事や研究は苦にならずに進めることができることを就職してから学びました。

近年、所用で技大にしばしば伺いますが、10年前と比較して、学内に建物が増えたこと、大学周辺にお店が増えたこと、私が住んでいた風呂トイレ共同の貸間は区画整理で新築のアパートに変わったことなどの風景を見ると時間の流れを感じます。しかし、雪の多さは10年前と全く変わりません。技大の皆さん、雪と寒さに負けずにがんばってください。



家族と(筆者は左)

よい仕事を見つけ出すコツ

酒井 勇貴

勤務先：平岡織染株式会社 
技術開発部技術開発第二課

(平成16年3月 生物機能工学専攻修了)

私は現在、産業資材用膜材料の研究をしています。弊社の膜材は、ドーム状建造物の屋根やレストランの日除けなどに使われています。数え切れないほど存在する樹脂や添加剤を組み合わせることで新たな付加価値をもつ膜材料を創出する、とても刺激的な仕事です。私は社会人になってまだ二年目ですが、在学中の皆さんに応援の気持ちを込めてアドバイスを送ります。

就職活動の際、自分の専攻や専門分野に絞った活動は避けた方が良いと思います。“今までやってきたこと”ではなく“これからやりたいこと”を考えてみてください。この方が、より前向きな“攻めの”就職活動ができるはずです。やりたいことが現在の

専門分野と異なったとしても気にすることはありません。異分野においても学んできたことが活かせる適応力があつた方が、会社では有用です。また、社会人として必要なのは“知識・向上心”よりも“サービス精神”です。研究者・技術者であっても、お客様を歓喜させることが何よりも大切なことです。日頃から技術と人との繋がりを意識することを推奨します。

最後に一言。趣味があると仕事がいっそう楽しくなります。私も先日、思い切って大好きな車を“男の48回払い”で購入しました。釣りも趣味なので、愛車で釣りに行くのがいい気分転換になっています。ガソリン価格の高騰とローン返済の重圧は想定外の範囲外でしたが…。



先輩・同期と撮った写真です。右側が私です。

第7回長岡国際祭り、平成17年度長岡技術科学大学留学生等交流懇談会の開催

本学留学生と地域の方々との文化交流、親睦を目的に、平成17年11月26日(土)に第7回長岡国際祭りを、平成17年12月7日(水)に平成17年度長岡技術科学大学留学生等交流懇談会をそれぞれ開催いたしました。以下、参加した留学生の声を紹介します。

第7回長岡国際祭りに参加して

建設工学専攻1年 ドニー ユリアント
(インドネシア)



第7回長岡国際祭りは11月26日、土曜日の夜に行いました。7ヶ国の料理、5ヶ国の伝統的な歌と踊りで約400人の来場者を迎えました。この祭りは地域住民の方々との文化交流、親睦を目的に毎年開催されているものですが、2方向性の交流として、今年は日本の太鼓、雛人形展示会、絵の展示会等の日本文化紹介に以前よりも力を入れました。今年の祭りは増えている傾向にある外国から来ている長岡市の住民にも楽しんで頂きたかったからです。

長岡国際祭りは毎年「交流」という大切なことを尊重しています。そしてその形は祭りの当日に限らず、長期的で様々な形がありました。祭りの主催は長岡技術科学大学と長岡市でした。長岡技術科学大学の留学生会(NUTISA)が中心となっていますが、大学の先生方や国際課の方々、そして長岡市からの力なしでは実現不可能なものでした。多くの人に、交流し、楽しんでいただいた当日の大規模な祭りは、実は以前か



今年も賑わいを見せた交流懇談会



長岡国際祭り(タイのブースにて)

らの長期的な交流の成果でした。交流を一緒に同じことを経験するという意味で考えると、今年の祭りも5ヶ国以上から構成されているNUTISA側の実行委員と大学の先生方や国際課の方々、そして長岡市役所との交流の成果だと思えます。当日に向かって本祭りを成功させるように様々な生活習慣や文化の違いによる価値観を統一して、そして日本語や英語を通してお互いにコミュニケーションし合う努力は、規模が小さくても決して忘れてはいけない交流でした。

今回の、交流により築いた思い出や友情が国が違っても同じ地球人間の架け橋になり、将来にわたって世界の平和に貢献できるものになるよう願っております。長岡市100周年の国際祭りにまたお会いしましょう。

お知らせ

証明書自動発行機を図書館に移設し、利用可能日・時間を拡大！

学生の皆さんより要望のありました、証明書自動発行機の利用可能日・時間の拡大に対応するため、証明書自動発行機2台のうち、1台を図書館カウンター横に移設し、図書館開館日のAM5:00からAM7:00までの2時間を除く時間帯に利用できるようにしました。

図書館の利用時間について

図書館開館日に24時間利用できる学生は、大学院生及び利用申請した学部4年生です。
図書館開館日と利用時間についての詳細は図書館利用案内を参照願います。

奥只見(魚沼市)

「奥只見」とは新潟県魚沼市の福島県境地域を指します。長岡から、国道17号線を南に行き、旧小出町で、352号線を走ると、自然に囲まれた美しい景色を見ることができます。先へ進むと、長いトンネル(全長22km)が目に入ります。そこは、シルバーラインと呼ばれています。このシルバーラインには要注意。トンネルは途中で曲がりくねり、路面が濡れています。急勾配もあり、とても楽しいトンネルです。また、トンネルの出口も要注意。湿度が急に異なるため、ウインドウが一気に曇る。出口が見えてきたら、ワイパーをいつでも動かせる心構えが必要です。

シルバーラインは、昭和32年に完成し、江戸時代に奥只見で銀が取れたことから「シルバーライン」と名付けられました。今なお岩肌が露出している個所があり、建設当時の苦勞が偲ばれる貴重な遺産です。

トンネルから出ると、奥只見ダムが辺り全面に広がっています。日本一の貯水量を誇るダム。堤高も重力式コンクリートダムの中では第一位です。奥只見ダムの高さは157mで、ビルならば概ね40階程度といった高さ。約100万人が消費する電力を発電しています。ダムを作り始めたのは、1953年、そして、1960年に完成しました。堤頂長は、480m、堤体積は、1,636,000m³、

ザバルスキー パヴォル(経営情報系 助教授)

総貯水量は、601,000,000m³、有効貯水量は、458,000,000m³です。新潟県側の入り口にあたり、駒ヶ岳、平ヶ岳、荒沢岳に囲まれ、雄大な山並みがあります。ダム湖を一周する観光船も運航しており、春の新緑、夏の湖面を渡る涼しい風、秋の紅葉など、四季折々の自然が楽しめる格好のリゾート地。

次に見えてくるのは、奥只見丸山スキー場です。初級者から、上級者まで楽しめます。一年の半分が雪の季節となる奥只見。奥只見丸山スキー場は11月下旬～1月上旬の初滑り、3月下旬～5月中旬の春スキーと2つのシーズンを持つちょっと変わったスキー場です。新潟県とは思えないパウダースノーが楽しめ、春はシーズン最後までパークアイテムが残る、穴場的スキー場です。スキー場には、カモシカゲレンデ、丸山ゲレンデ、ブナ平ゲレンデ、八崎ゲレンデがあります。丸山ゲレンデには、大人気のスノーパークがあります。そのウリは、ボーダーのド肝を抜く巨大なキッカーと豊富なレール。くれぐれも飛び過ぎにはご用心を・・・。

この奥只見丸山スキー場では、いろいろな楽しいイベントもたくさん開かれています。イベントは、大会や、スキーの新製品の試乗会など様々です。是非行ってみてください。



丸山スキー場のリフトから見た奥只見の景色



奥只見丸山スキー場

編集後記

昨年度より学長・理事・副学長へのインタビューをシリーズとして特集してきました。今回は「大学評価について」です。昨今、教職員は「JABEE」を始め多くの時間が大学評価に関する仕事に割かれています。本学の教育研究を胸を張って学外にPRするには格好の機会なのですが、更に良いものを目指して一層の努力や難しい判断を要する場面も多々あります。「ほ～っとする話」よりも「ぞ～っとする話」に囚われがちではありますが、健全なる精神と身体、そして未来への希望をもって、教職員学生OBが一丸となって躍進する一年となりますように。

VOS131号(平成18年1月)

編集発行/長岡技術科学大学広報委員会(総務部 総務課)

*本誌に対するご意見等は下記までお寄せください。

〒940-2188 長岡市上富岡町1603-1

Tel.0258-47-9209 Fax.0258-47-9000

E-mail skoho@jcom.nagaokaut.ac.jp

URL : <http://www.nagaokaut.ac.jp/>

VOSの由来

本学のモットーである,Vitality,Originality,Servicesの頭文字をとって,本学初代学長の故川上正光氏により名付けられました。



2006年10月1日
開学30周年を迎えます。